

ヨハネによる福音書 5章 1～9 節 a

今月は、いわゆる「ベトザタの池の病人」をめぐる箇所に移ります。そこでは病の男とイエスとのやり取りを中心に 一連の出来事が 18 節まで続きますが、私たちはそこから何を読み取り、何を学ばされるでしょうか。今月は9節の前半までを扱い、残る 18 節までは次回に譲ることにします。

場面は、前々回 (2021 年 10 月) のサマリア地方の^{あと}後、前回 (同 12 月) のガリラヤ地方での出来事を挟んで、ユダヤ地方のエルサレムに移ります (聖書地図「6. 新約時代のパレスチナ」参照)。

「ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた」(1)

・当時、エルサレムの周辺 約 35 キロ以内に住むユダヤ人の成人男性は皆、エルサレムの神殿で催される 次の 3 つの「祭り」に出席することが義務づけられていました。3 大祭と言われる祭りです。

- ①^{すぎこしさい}過越祭：神がエジプトからの脱出を導いてくださったことを記念する祭り。
- ②^{ごじゆんさい}五旬祭：モーセが神から^{じっかい}十戒を賜わったことを記念する祭り。
- ③^{かりいおさい}仮庵祭：エジプト脱出後の荒れ野の旅を神が守ってくださったことを記念する祭り。

ただし、ヨハネ福音書は、当の祭りがどの祭りであったかは記していません。

- ・神殿は人々でごった返していたことでしょう。
- ・しかし、イエス御自身は 祭りの^{さなか}最中にもかかわらず、別の場所におられます。おそらくは、神殿に出向き、なすべきことを済ませて、そこを^{あと}後にされたのでしょうか。
- ・そのイエスは今、どこにおられるか。そして、その思いはどこに向けられているか。イエスの心に想いを寄せてみたいと思います。

「エルサレムには羊の門の^{かたわ}傍らに、ヘブライ語で『ベトザタ』と呼ばれる池があり、そこには^{かいろう}五つの回廊があった」(2)

・そこは「エルサレム」の「羊の門の^{かたわ}傍らに」ある池で、「ヘブライ語で『ベトザタ』と呼ばれる池」だったと、2 節に記されています。

・「羊の門」は当時のエルサレムの城門の一つで、池は発掘によって、神殿から少し離れた北側で発見されました。聖アンナという修道院の構内で見つかったため、現在は「聖アンナの池」と呼ばれています。

・台形のような形の、少し大ききの違う池を 2 つ 想い描いてください。そして、上に小さなほうが、下に大きなほうがくるようにして、それらを上下に重ね合わせます。南北に二つの池が合わさった双子の池が出来上がったかと思います。二つを合わせると、全体で 横が 60 メートル余り、縦が 100 メートルほどにもなる、ちょっとした遊水地のような池です。

・そして、その周囲を全体として「^{かいろう}回廊」が^{かいろう}潤んでいます。上下左右で、4 つ。それにもう一つ 二

つの池の境目にも回廊があり、これで合計5つで、「五つの回廊」となります。

- ・回廊には、^{あめつゆ}雨露をしのげるように それなりの建築物があったとされています。

「この回廊^{かいろう}には、病^{まひ}気の人、目^{まひ}の見えない人、足^{まひ}の不自由な人、体^{まひ}の麻痺した人などが、
大勢^{おおぜい}横たわっていた」(3)

- ・そこには、病める人たちや苦しめる人たちがチラホラでなく、文字どおり「大勢^{おおぜい}横たわっていた」といいます。群がるようにそうしていたのでしょうか。
- ・少なからぬ人が何か月も何年もそこに身を横たえていたにちがひありません。その様^{さま}ははたして、どんなものだったか。そこはいったい、何と称すべき場所だったのでしょうか？

池の名前「ベトザタ」について

- ・実は、池の名前の「ベトザタ」については、邦訳でも英訳でも「ベテスダ」としている聖書も少なくありません。

①邦訳で言えば、現在の『新共同訳聖書』の前の2つの聖書、『文語訳聖書』と『口語訳聖書』がいずれもそうで、

②英訳聖書では、*The New King James Version* や *The Revised English Bible* などが同様です。

・それは、元々のオリジナル原稿が失われていることから来ています。当時は印刷機などありませんから、文書は手書きで写して継承しなければなりませんでした。その書き写しの分を「写本^{しゃほん}」と呼びますが、そこには当然ながら、写し間違いも起こってきます。

・「ベトザタ」か「ベテスダ」かという問題も、こうしたことに起因していると考えられています。綴り^{つづ}も発音も似ているので、なおさらでしょう。

- ・そのうえでのことですが、池の名前が

①「ベトザタ ($B\eta\theta\zeta\alpha\theta\acute{\alpha}$ < $B\eta\theta\zeta\alpha\theta\acute{\alpha}$, ἥ)」(新共同訳) だとしたら、それは「オリーブの家^{いえ}」という意味であり、他方、

②「ベテスダ ($B\eta\theta\epsilon\sigma\delta\acute{\alpha}$ < $B\eta\theta\epsilon\sigma\delta\acute{\alpha}$, ἥ)」(文語訳、口語訳) だとしたら、「慈しみ^{いえ}の家」という意味になります。オリーブにも増して美しい、なんとも深い意味を秘めた呼び名ではないでしょうか。

- ・どうして、慈しみ^{いえ}の家なのでしょうか。

また、そう呼ばれるその所の有^あり様^{さま}は 実際にはいったい、どんなものだったと考えられるのでしょうか。

そして、そこに、私たち人間のどんな現実を見るのでしょうか。

「彼らは、水が動くのを待っていた」(3b)

「それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、
水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、

どんな病気にかかっている、いやされたからである」(4)

- ・池の周りに大勢おおぜいの人たちが横たわっていたのは、「水が動くのを待っていた」(3b) からだといい
ます。
- ・そして、「それは・・・」と、その理由を述べているのが 4 節です。「主の使いがときどき 池に降
りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっ
ている、いやされたからである」(4) と。
- ・ちなみに、これらの 3b~4 節は、新共同訳聖書では本文もとの外、福音書の最後の頁の欄外に記され
ています(212 頁)。これも、写本によって 記されているものと抜けているものがあるため、厳
密を期してそうしたものです。
- ・池の「水が動く」(3b、4) ことについては、可能性として幾つか、推測がなされています。
 - ①池の底から間欠泉かんけつせんのように水が湧いていて、それが時折、池の表面を動かした。
 - ②池の底に地下水の水流があつて、それが時に、池の水を泡立てた。
 - ③池は北のほうが少し高く、これを利用して、二つの池の水位を調節する水道うが埋められていた。
この水道で 北の池から南の池に水を導くとき、その水の動きによって 池の表面が波立った。
 - ④水位を維持するため、外部から水を引く水道が埋設されてあり、それで水を引き込む際に 池の表
面さざなみに細波が立った。
- ・いずれにせよ、人々は何らかの理由で、池の水が動くのを必死に待っていたのでした。

ベトザタの池の病人について

- ・ベトザタの池の病人は、8 節から察するに、足が不自由で動けなかったとみられます。
- ・彼は 38 年間も、そこに横たわっていました(5)。
- ・だとすれば、池の周りにいる者たちのうち、誰よりも長く、誰よりも惨めみじな人生をおくってきた
のではないのでしょうか。

イエス：「良くなりたいか」(6)

病人：「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。

わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです」(7)

- ・イエスが目を留められたのは、この病人にでした。それは、なぜだったのでしょうか？
- ・そして、イエスはその男に声をかけられます。「良くなりたいか」(6) と。
- ・しかし、これは取りようによっては、愚かな問いと言えなくもないように思われます。38 年もの
間、床とこに臥している人間です。治りたいに決まってる、と そう思うからです。
- ・ならば、イエスは どうして、そのような問いかけを男にされたのでしょうか。
- ・と同時に また、その問いかけに対する男の返答です。「治りたいのか」と聞かれたのに、治りたい
とも治りたくないとも言わず、いかにもピント外れな答えしかしていません。「主よ、水が動くとき、
わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに・・・」(7) と。

・そんなやり取りから、私たちは男のどんな心の内を想像するでしょうか。その心の軌跡は？ 今この時の心情は？ そして、先々に対する思いは？ 男のその本心は はたして、どんなものだったのでしょうか。

「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい」(8)

「すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした」(9)

・ピントの外れた、男の返答。しかし、それにもかかわらず、イエスはなおも、男に「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい」(8)と言われます。一方的なもの言いにも聞こえる言葉ではないでしょうか。そこにあるのは いったい、イエスの何なのでしょう？

・そもそも、「起き上がりなさい (ἐγείρε<ἐγείρω)」(8)とは「立ち上がりなさい」ということで、それはまた、「甦りなさい」「復活しなさい」という言葉にほかなりません。

・だとしたら、「起き上がりなさい」と言われたイエスのその真意は 実のところ、どこにあったのでしょうか？ 身体的に起き上がるということだけだったのでしょうか。

・また、イエスはこれに加えて、「床を担いで歩きなさい」(8)とも 男に言われています。

・男の床は藁で出来た軽いものでした。ですから、担いでも歩けるわけですが、が 実のところ、男はわざわざそうする必要もありませんでした。そこに置いたまま立ち去ってもよかったです。誰かがまた、それを使うことができたはずです。

・けれども、イエスはあえて、「床を担いで」(8) 歩け、と言われました。イエスはそれで いったい、何を言わんとされたのでしょうか。

「聖書を読む」ということ

・聖書に向かうと、色とりどりの人間の有り様を目にさせられます。今月の箇所もそうで、そうした特質のとりわけ顕著な場面の一つと言えるでしょう。

・聖書を読むというのは、一つにはそのようにして、個々の出来事の中に 誰の内にもある、したがって自分自身の内にもある人間としての本質を読み取ること、感じ取ることなのではないか、と私はそんなふうに思われています。

・皆さんにとって、「聖書を読む」とは どのようなことでしょうか。今回の学びを機に、いま一度、考えてみてはいかがでしょう。

.....

・ベトザタの池の病人は、私たちと無縁な人間？

・池の病人とイエスとのやり取りから、聖書の信仰の何を教えられる？

・今月の聖書が語りかけるメッセージの中心とは？